

委託事業実施内容報告書
平成27年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム（B）】
実施内容報告書

受託団体名：公益財団法人 愛知県国際交流協会

1. 事業名称

多文化共生社会実現に向けた地域の日本語教育推進事業

2. 事業の目的

- ①地域の様々な主体が連携・協働して多文化共生社会に向けた「地域における日本語教育」を推進していく基盤をつくること
- ②日本語教育指導に携わるボランティア等がより効果的な教室活動を実施できるようになること
- ③県内市町村と連携をとり、地域に必要な日本語教育のコーディネーターとしての役割を担う人材を育成すること

3. 事業内容の概要

【取組1】日本語教育リソースルーム祭り「やろまい会」の開催

【取組2】日本語教室実践講座の開催

【取組3】日本語ボランティアシンポジウムにおける成果発信

【取組4】

- ①日本語ボランティア理解講座の開催
- ②行動・体験型プログラム研修の開催
- ③地域日本語教育コーディネーター研修の開催

4. 事業の実施体制について

役割	氏名	所属	役職	取組
地域日本語教育コーディネーター	酒井美賀	東海日本語ネットワーク	代表	1.3.4-2
地域日本語教育コーディネーター	鈴木勝代	東海日本語ネットワーク	研修担当	3~4-2
地域日本語教育コーディネーター	米勢治子	東海日本語ネットワーク	副代表	2~4-3
事業担当者	栗木梨衣	愛知県国際交流協会	交流共生課長	1~4-3
事業担当者	春日井隆司	愛知県国際交流協会	主査	1~4-3
事業担当者	甲村博美	愛知県国際交流協会	主事	4-2.4-3
事業担当者	伊藤詩織	愛知県国際交流協会	主事	1~4-1

5. 運営委員会の開催について

【運営委員】

1	尾崎明人	名古屋外国語大学
2	松本一子	愛知淑徳大学
3	酒井美賀	東海日本語ネットワーク
4	米勢治子	東海日本語ネットワーク
5	鈴木勝代	東海日本語ネットワーク
6	神谷 輝	愛知県地域振興部多文化共生推進室
7	栗木梨衣	愛知県国際交流協会

【概要】

回	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成 27 年 5 月 15 日(金) 13:00-15:00	2 時間	あいち国際 プラザ	尾崎明人 松本一子 酒井美賀 米勢治子 鈴木勝代 神谷 輝 栗木梨衣	1. 平成 26 年度文化庁事業の実施結果について 2. 平成 27 年度文化庁事業計画について
2	平成 28 年 1 月 15 日(金) 15:00-17:00	2 時間	あいち国際 プラザ	尾崎明人 松本一子 酒井美賀 米勢治子 鈴木勝代 神谷 輝 栗木梨衣	平成 27 年度文化庁事業報告について

6. 取組についての報告

取組1:日本語教育リソースルーム「やろまい会」の開催

(1) 体制整備に向けた取組の目標

日本語教育従事者のために様々な資料をそろえ、情報発信をしたり、ネットワーク構築の場として当協会に設置している日本語教育リソースルームにおいて、より多くのボランティアにリソースルームの存在を知ってもらい、教材を活用してもらうため、日本語ボランティアに役立つ勉強会を実施し、啓発を図るとともに地域ボランティアが交流を図る場となるようにする。

(2) 取組内容

リソースルームにある資料などを活用した、行動・体験型教室活動づくりを考える講座を実施する。講義だけでなく、ディスカッションや交流会の時間も設けることで、当協会と地域教室ボランティア、もしくは地域ボランティア同士の繋がりを築き、今後の協働や情報共有へ繋げる。

(3) 対象者 日本語ボランティア

(4) 参加者の総数 28 人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 0 人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
									28

※その他の国籍と人数:該当なし

(5) 開催時間数(回数)

12 時間(3 時間×全 4 回)

(6) 活動の内容

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	実施概要	指導者名	補助者名
1	平成 27 年 9 月 26 日(土) 13:30-16:30	3 時間	あいち 国際 プラザ	14 人	非常食を食べよう ～「使える日本語 を学ぶ」を使って ～	非常食に焦点を当て、 学習者への防災に関する ことばの伝え方を考えた。	小川千鶴	杉山明美
2	10 月 17 日(土) 13:30-16:30	3 時間	あいち 国際 プラザ	6 人	防災テキスト～教室 で使える防災 テキストをつくる ～	学習者に覚えてほしい 防災用語を集め、防災 テキスト作りを行った。	伊藤千恵美	石川幸代 板倉和子
3	11 月 28 日(土) 13:30-16:30	3 時間	あいち 国際 プラザ	9 人	料理教室をひら いてみよう!～活 動から学ぶ日本 語をみつける～	料理を通じて、学習者 から日本語を引き出す ことができる教室活動の 流れを考えた。	奥津愛子	石川幸代 板倉和子
4	12 月 12 日(土) 13:30-16:30	3 時間	あいち 国際 プラザ	17 人	遊びの中からみ つけよう!～学習 レベルに合わせ たことばの引き出 し方～	遊びやゲームを一緒に することで楽しく日本語 を覚えられる方法や、遊 びを使った教室活動の 流れを考えた。	山田宏子	石川幸代

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例①

【第2回 平成27年10月17日(土)】

テーマ:防災テキスト～教室で使える防災テキストをつくる～

内 容:

災害が起こった時、学習者が災害時特有の日本語が分からなくて困ることがないように、防災テキスト作りを行った。

- ・ 例示した防災テキストを見て、参加者が気づいた点を発言。
- ・ 外国人に覚えてほしい、災害に関することばを付箋に貼り出す。
- ・ 付箋に出したことばのうち、防災テキストに掲載したいことばを決める。
- ・ 選んだことばと、イラストなども使いながら、模造紙で防災テキストを作成。
- ・ 作成した防災テキストについて発表。(対象者・工夫した点等)
→作成した防災テキストは、実際に使えるようコピーして参加者全員に配付。
- ・ 交流会(防災テキストのこと、自分の教室のこと、ボランティアになったきっかけ等)



取組事例②

【第4回 平成27年12月12日(土)】

テーマ:遊びの中からみつけよう!～学習レベルに合わせたことばの引き出し方～

内 容:

テキストを使わず、行動や体験をすることで日本語を楽しく覚える方法として、遊びを通じた日本語の引き出し方を考えた。

- ・ しりとりで参加者の自己紹介。(やろまいー山田です、いかー板倉です・・・)
- ・ どんな遊びやゲームがあるか、グループに分かれて書き出す。
- ・ 福笑いを使った初級レベルに合う遊び方を考え、実際に自分達でそれを体験してみる。
- ・ グループごとに遊びをひとつ決めて、レベルに応じた遊び方を考える。
- ・ 考えた遊び、それを通じて引き出せる日本語について発表。
- ・ 交流会(今までやったことある遊びの活動、自分の教室のこと等)



(8) 目標の達成状況・成果

リソースルームに訪れたことがない人にも参加してもらうことでリソースルームの存在を知ってもらうことができた。実施内容についてもアンケート結果から、概ね満足していただけたことが分かる。また各回とも、回の最後に交流会を行い、参加者同士の情報交換を行うことができた。

【アンケート集計結果】(回答者数:12名)

ア とてもたのしかった … 9名 イ まあまあたのしかった … 1名 ウ ふつう … 1名
エ あまりたのしくなかった … 0名 オ つまらなかった … 0名 カ 未回答… 1名

(9) 今後の改善点について

内容については満足の声が多かったので、今後は実際に学習者を交えた行動・体験型教室活動を行い、活動の様子を発信できるようにしていきたい。リソースルームの周知はある程度できたが、利用者増加には至っていないため、リソースルームの資料活用方法や運用体制について改善する必要がある。

取組2:日本語教室実践講座の開催

(1) 体制整備に向けた取組の目標

愛知県内の市町村と連携し、地域日本語教室の活動のステップアップや空白地域への日本語教育の拡充を目指す。

(2) 取組内容

愛知県内にある日本語教室を対象に、教室の運営体制の向上や教室活動における課題の解決に向けた講座を開催する。講座の開催を開催地の市町村・協会と協働で行い、当協会と市町村・協会との繋がりを築くことで、今後の協働や情報共有に活かす。

(3) 対象者

地域日本語教室で活動するボランティア

(4) 参加者の総数 32人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 0人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
									32

※その他の国籍と人数:該当なし

(5) 開催時間数(回数)

12 時間(2 時間×2 回×3 箇所)

(6) 活動の内容

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	実施概要	指導者名	事業担当者
1 / 2	平成 27 年 12 月 1 日 (火)・ 8 日(火)	2 時間 ×2 回	安城市役所 西会館	15 人	「やさしい日本語」とコミュニケーション	日本語ができない外国人とのコミュニケーションツールとしての「やさしい日本語」について、また日本語教室案内の「やさしい日本語」版作り。	米勢治子	伊藤詩織
3 / 4	1 月 16 日 (土)	2 時間 ×2 回	岩倉市生涯 学習 センター	12 人	～みんなで考えよう～ “日本語ひろば岩倉”の未来	自分達の教室活動をふりかえり、「遊び」をテーマに、実際に自分達でできる活動案を考える。	米勢治子	伊藤詩織
5 / 6	2 月 14 日 (日)	2 時間 ×2 回	愛西市文化 会館	5 人	みんなでつ くろう！日 本語教室お しゃべりひ ろばの活動	自分達の教室活動をふりかえり、「遊び」をテーマに、実際に自分達でできる活動案を考える。	米勢治子	伊藤詩織

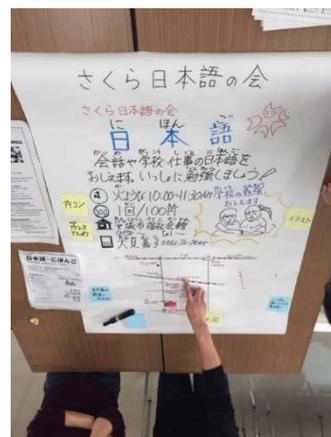
(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例①

【第1・2回 平成 27 年 12 月 1 日(火)・8 日(火)】

テーマ:「やさしい日本語」とコミュニケーション

内 容:「やさしい日本語」の必要性やコミュニケーションツールとしての「やさしい日本語」、「やさしい日本語」への変換ルールの講義を踏まえ、自分達の日本語教室案内を「やさしい日本語」版で作るワークショップを行った。



(8) 目標の達成状況・成果

ほとんどの参加者にとって参考になる内容を実施できたことが、アンケートの集計結果から分かる。講座として活動に活かすことができる内容を実施できただけでなく、参加者が自分達の教室運営や活動内容について見直すきっかけとなった。また当協会と開催市協会との繋がりを築くことができた。

【アンケート集計結果】(回答者数:31名)

ア とても参考になった …21名 イ まあまあ参考になった … 8名
ウ どちらともいえない … 1名 エ あまり参考にならなかった … 0名
オ 参考にならなかった … 0名 カ 未回答… 1名

(9) 今後の改善点について

実践講座を実施することによって市町村や国際交流協会の担当者と教室ボランティアとの間にニーズの理解や思いのギャップがあることが顕著にみえてきた。今後はそこを埋めていくよう働きかける必要がある。

取組3: 成果発信会「なぜボランティアが日本語教室をやるのか？」の実施

(1) 体制整備に向けた取組の目標

多くの人に、地域の拠点としてのリソースルームの存在、活用方法、文化庁「『生活者としての外国人』に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について」の活用などについて知ってもらい、それぞれの教室、地域での活動に役立ててもらうことにより、コーディネーター的役割を果たせる人材を増やしていく。

(2) 取組内容

地域日本語教室の必要性やボランティアが行う日本語教室の意義などについて、運営委員により講演を行っていただく他、AIA の日本語教育関係取組にまつわる座談会を行う。また、取組4-2プログラム研修に参加した市や協会主催教室のプログラム研修ポスター発表を実施する。さらに、休憩時間及び発信会終了後に、リソースルームも見学できるようにする。

(3) 対象者

市町村・協会の日本語教育担当職員・日本語ボランティア

(4) 参加者の総数 70名

(5) 開催時間数(回数)

3時間(1回)

(6) 活動の内容

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	実施概要	講師等	発表者
1	平成 28 年 2 月 16 日(火) 13:30-16:30	3 時間	あいち 国際 プラザ		なぜボランティアが日本語教室をやるのか？	運営委員による講演、AIA の日本語教育関係取組座談会、プログラム研修ポスター発表、リソースルーム見学	尾崎明人 米勢治子 酒井美賀 栗木梨衣	内田和子 西山貴美子 伊藤真弓 岩谷喜美 磯貝一己

(7) 特徴的な活動風景(2~3回分)

取組事例①

<事例発表ポスターセッション>

取組4-2プログラム研修に参加した教室のうち、あいち国際プラザにほん語教室(主催:当協会)及び日本語教室おしゃべりひろば(主催:愛西市)による実践活動ポスター発表を行った。実施内容だけでなく、大変だったことややってよかったことなども発表していただき、質疑応答の時間も設けた。



(8) 目標の達成状況・成果

参加者には、当協会の取組や趣旨を知ってもらうことができ、日頃の活動へ活かすことができる情報を提供することができた。

【アンケート集計結果】(回答者数:59名)(3項目平均)

ア とても参考になった … 29 イ まあまあ参考になった … 20 ウ どちらともいえない … 5
エ あまり参考にならなかった … 2 オ 参考にならなかった … 2 カ 未回答… 2

(9) 今後の改善点について

日本語ボランティアが多数参加したものの、市町村・協会職員の参加は少なかった。市町村・協会職員の多数参加に向けて、内容を精査する必要がある。

取組4-1:日本語ボランティア理解講座の開催

(1) 体制整備に向けた取組の目標

なにかボランティアをしてみたいと考えている人・日本語ボランティアについて知らない人を対象として実施し、日本語教育についての啓発講座となるようにする。また、日本語ボランティアを始めたばかりの人の手助けとなるような講座にする。

(2) 取組内容

日本語教育の啓発事業として、日本語ボランティア未経験者・初心者向けの講座を開催する。講座では日本語ボランティアとは、というところから日本語教育についての基礎を学ぶことができる。

(3) 対象者

日本語ボランティア未経験者・初心者

(4) 参加者の総数 21人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 0人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
									21

※その他の国籍と人数:該当なし

(5) 開催時間数(回数)

8時間(2時間×全4回)(第4回日本語ボランティアシンポジウム参加は含まない)

(6) 活動の内容

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	実施概要	指導者名	補助者
1	平成27年 11月14日(土) 10:30-12:30	2時間	あいち国際プラザ	19人	日本語ボランティアになる前に	愛知県の外国人住民の状況や日本語ボランティアとは何か、県内の日本語教室等についての講義	米勢治子	—
2	11月21日(土) 10:30-12:30	2時間	あいち国際プラザ	19人	外国につながる子どもたち	外国につながる子どもとは、またそれに対する県や市町村の受け入れ施策、また外国につながる子どもたちに対して、日本語ボランティアができることに関する講義	松本一子	—
3	11月28日(土) 10:30-12:30	2時間	あいち国際プラザ	14人	教えることを考える	地域日本語教室向けのテキストの比較や、「生活者としての外国人」が日本語を習得するための教室活動に関する講義	伊藤典子	—
4	12月12日(土) 10:30-12:30	2時間	あいち国際プラザ	12人	振り返りと今後に向けて	日本語シンポジウムにおいて登壇者や教室ブースで聞いたことに関する感想共有、プラザ日本語教室の見学、これからの参加者の活動等について	鈴木勝代	—

※その他、第4回として12月5日(土)日本語ボランティアシンポジウム(主催:東海日本語ネットワーク/(公財)名古屋国際センター)に参加

(7) 特徴的な活動風景(2~3回分)

取組事例①

【第3回 平成27年11月28日(土)】

テーマ:教えることを考える

内容: 地域の日本語教室でどのようなボランティアを目指すのか、という観点で、参加者自信が考えた
り、グループで話しあったりする場面を設けながら、以下の内容の講座を行った。

- ・ 従来型外国語教育とは。
- ・ 学習者がコミュニケーション力をつけるには。
- ・ 地域日本語教室向けのテキストを比較してみる。
- ・ 「生活者としての外国人」が日本語を習得のための教室活動事例紹介。
- ・ 「やさしい日本語」の練習。



取組事例②

【第5回 平成27年12月12日(土)】

テーマ:振り返りと今後に向けて

内容:

シンポジウム参加を含めた4回の講座を踏まえ、以下のとおり今後の活動に繋がるような話し合いや
教室の見学等が行われた。

- ・ 日本語シンポジウムにおいて登壇者や教室ブースで聞いたことに関する感想共有。
- ・ プラザ日本語教室の見学。
- ・ 参加者が活動してみたい教室についての共有、アドバイス。



(8) 目標の達成状況・成果

未経験者には、講座で地域の外国人の現状や課題が伝わり、日本語ボランティアを始めたい、といった声や、日本語ボランティアではなくても、外国人の役に立ちたいといった声があり、日本語教育や多文化共生に関する啓発に繋がった。また初心者からも、日本語ボランティアの役割について再認識するきっかけとなったという声があり、地域日本語教室活動への理解を促進できたと考えられる。

【アンケート集計結果】(回答者数:12名)

ア とても参考になった … 9名 イ まあまあ参考になった … 3名 ウ ふつう … 0名
エ あまり参考にならなかった … 0名 オ 参考にならなかった … 0名

(9) 今後の改善点について

内容については参考になったという声が多かったが、講座を受講後に当協会日本語ボランティアをやりたいという方がいた。今回の講座受講者は当協会の日本語ボランティアにはなれないため、ボランティア活動希望者が受講後、よりスムーズに当協会や地域の日本語教室で活動できるような体制が必要である。

取組4-2:「行動・体験型」プログラム研修の開催

(1) 体制整備に向けた取組の目標

地域日本語教室において、文化庁カリキュラム案を活用した、行動・体験型の活動案を作成し、実際に各教室で行えるようにする。

(2) 取組内容

①行動・体験型プログラム研修の実施

地域で活動するボランティア向けに、多文化共生に根ざした行動・体験型の日本語教室の活動づくりについての研修を行う。

参加者は研修の中で活動案を作成し、実際に自分の教室へ持ち帰って実践活動として、「行動・体験型」の日本語教室を実施する。

②活動事例集の作成

①で行った実践活動の結果を事例集として冊子にまとめ、研修に参加していないボランティアや日本語教育従事者へ行動・体験型の日本語教室活動について広く知らせる。

③行動・体験型モデル教室の実施

昨年度、文化庁受託事業により作成した冊子『「使える」日本語を学ぶ!』をもとに、昨年のプログラム研修参加者がモデル教室を、(公財)愛知県国際交流協会の場所を使って、あいち国際プラザにほん語教室に通う学習者に対して行う。学習者はもちろん、今年度のプログラム研修の参加者も見学し、行動・体験型の日本語教室について学ぶ。

(3) 対象者

研 修 : 地域の日本語教室で活動しているボランティア
実践活動: 研修参加者が所属する教室の学習者

モデル教室: あいち国際プラザにほん語教室の学習者

(4) ①研修参加者の総数 31人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 0人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
									31

※その他の国籍と人数: 該当なし

③モデル教室参加者の総数 91人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 63人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
25	4	1	2		2	3	2	5	47

※その他の国籍と人数: インド 5、台湾 3、アメリカ 5、ロシア1、ウズベキスタン1、ロシア1、ミャンマー1、カザフスタン1

(5) 開催時間数(回数)

①研修 : 26時間(3時間×全8回)(第8回目のみ、5時間実施)

②実践活動日本語教室: 49.2時間

③モデル教室: 17時間

(6) 活動の内容

①研修

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	実施概要	指導者名	補助者等
1	平成 27 年 6 月 20 日(土) 13:30-16:30	3 時間	あいち 国際 プラザ	24 人	標準的なカリキュラム案とは?	文化庁の「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案等について概要を知り、その「考え方」と「行動・体験中心の活動」とは何かを理解する。また、活動の効果をどう評価するか考える。	米勢治子	—
2	6 月 27 日(土) 13:30-16:30	3 時間	あいち 国際 プラザ	23 人	学習者に役立つテーマとは?	「行動・体験型」の活動テーマの選び方を確認し、テーマからどのような手順を経て活動をつくるかについて理解する。	米勢治子	—
3	7 月 4 日(土) 13:30-16:30	3 時間	あいち 国際 プラザ	23 人	活動案をつくらう	1つのテーマの活動をどの程度の時間をかけて行うのかを考え、その具体的な活動の流れと素材・教材について理解を深める。	米勢治子 安藤よし子 大島美枝 森口涼子	—

4	7月18日(土) 13:30-16:30	3 時間	あいち 国際 プラザ	25人	実践に向け て	それぞれの活動現場の条件などを確認し、実践に向けた活動案を考える。 また、リソースの1つとして、防災グッズについての説明を受けた。	米勢治子 板宮朋基	安藤よし子 酒井美賀 岡部真理子 白石真理
5	9月5日(土) 13:30-16:30	3 時間	あいち 国際 プラザ	20人	実践活動計 画を立てる	モデル教室見学をふりかえり、第4回で確認したことをもとに実施可能な活動計画を立て、準備する事柄の手順や素材・教材について考える。	米勢治子	安藤よし子 酒井美賀 岡部真理子 白石真理 鈴木勝代
6	9月19日(土) 13:30-16:30	3 時間	あいち 国際 プラザ	21人	実践活動計 画を共有し よう	各自が持ち寄った活動計画、素材・教材を共有・検討する。また、活動報告会のポスターの作成方法について理解する。	米勢治子	鈴木勝代 安藤よし子 岡部真理子 白石真理
7	10月31日 (土) 13:30-16:30	3 時間	あいち 国際 プラザ	18人	実践活動ふ りかえり①	実践活動をふりかえり、行動体験型の活動の意義と方法を再認識する。また、改めて活動報告会のポスターの準備と発表方法について理解する。	米勢治子	鈴木勝代 安藤よし子 酒井美賀 岡部真理子 白石真理
8	11月7日(土) 10:30-16:30	5 時間 (休憩 1 時間)	あいち 国際 プラザ	24人	実践活動ふ りかえり②	実践活動を共有・検討し、よりよい活動を目指す。	米勢治子	鈴木勝代 安藤よし子 酒井美賀 岡部真理子 白石真理

②実践活動日本語教室

No.	所属	テーマ	開催日時	時間 数	合計 時間数	補助者等
1	いろは日本語の会	目的地に行こう	10月8日 10:20~12:00	1.6	3.1	酒井美賀 甲村博美
			10月15日 10:30~12:00	1.5		酒井美賀 甲村博美
2	KIFA 日本語支援 グループ	病気になったら どうしますか	10月25日 10:00~11:30	1.5	4.5	鈴木勝代 岡部真理子
			11月8日 10:00~11:30	1.5		鈴木勝代 岡部真理子 春日井隆司
			12月13日 10:00~11:30	1.5		—
3	KIFA 日本語支援 グループ	チラシを見て 買い物しましょう	9月19日 19:00~20:30	1.5	6.5	米勢治子 岡部真理子
			9月20日 10:00~11:30	1.5		岡部真理子
			9月27日 13:00~15:00	2		—
			10月24日 19:00~20:30	1.5		—
4	ことばの会	地震(自然災害)に ついて知ろう	9月30日 10:00~10:30	0.5	4.5	—

			10月7日 10:00~10:30	0.5		—
			10月14日 10:00~10:30	0.5		—
			10月21日 10:00~11:30	1.5		米勢治子 甲村博美
			10月28日 10:00~11:30	1.5		米勢治子 甲村博美
		食品の表示を 理解する (アレルギー・ ハラール食品)	11月4日 10:00~12:30	2.5	4	—
			11月11日 10:00~11:30	1.5		—
		非常食	11月25日 10:00~12:00	2	2	—
5	日本語教室 おしゃべりひろば	買い物に 行きましょう	9月6日 10:00~11:30	1.5	4	—
			9月20日 10:00~11:30	1.5		鈴木勝代 白石真理
			9月27日 10:00~11:30	1		鈴木勝代
6	プラザ にほん語教室 火曜日	自転車の交通 ルールを知ろう	10月13日 13:30~15:00	1.5	4.5	鈴木勝代 甲村博美
			10月20日 13:30~15:00	1.5		鈴木勝代 甲村博美
			10月27日 13:30~15:00	1.5		鈴木勝代 酒井美賀 白石真理 甲村博美
7	プラザ にほん語教室 金曜午後	ハローワークへ 行ってみよう	10月2日 13:30~15:00	1.5	4.5	米勢治子 甲村博美
			10月9日 13:30~15:00	1.5		米勢治子 甲村博美
			10月16日 13:30~15:00	1.5		酒井美賀 甲村博美
8	プラザ にほん語教室 金曜夜	買い物をしよう	10月2日 19:00~20:30	1.5	3	米勢治子 白石真理 伊藤詩織
			10月9日 19:00~20:30	1.5		米勢治子 白石真理 甲村博美
9	プラザ にほん語教室 土曜午前	日本の銀行 ATM を うまくつかおう	10月10日 10:30~12:00	1.5	4.5	米勢治子 鈴木勝代 甲村博美
			10月17日 10:30~12:00	1.5		米勢治子 安藤よし子 甲村博美
			10月31日 10:30~12:00	1.5		米勢治子 鈴木勝代 甲村博美
10	プラザ にほん語教室	地震時の 緊急対応の体験	9月26日 14:15~15:30	1.25	2.75	安藤よし子 甲村博美

	土曜午後		10月31日 14:00～15:30	1.5		春日井隆司
11	Viva おかざき!	支援に役立つ 日本語教室	10月4日 15:00～17:00	2	8	鈴木勝代 甲村博美
			10月11日 15:00～17:00	2		岡部真理子 甲村博美
			10月18日 15:00～17:00	2		甲村博美
			10月25日 15:00～17:00	2		—

③モデル教室

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年 7月28日(火) 13:30-15:00	1.5 時間	あいち 国際 プラザ	17人	図書館を 利用しよう	図書館の司書の方の出前講座を聴き、日本の図書館について知る。	岡部真理子	白石真理
2	8月4日(火) 13:30-16:30	3 時間	あいち 国際 プラザ・愛 知県図書 館	12人		実際に図書館へ行き、館内ツアーに参加する。登録カードを作り、学んだ日本語を活用して本を借りる。館内ツアーをしていただいた図書館の方に日本語でお礼の手紙を書き、発表する。	岡部真理子	白石真理
3	8月22日(土) 10:15-13:15	3 時間	あいち 国際 プラザ・衣 料品店	20人	チラシを使っ て買い物し よう	チラシの見方や買い物で役に立つ日本語を学習する。その後実際に衣料品店へ行き、学んだ日本語を活用して買い物をする。	白石真理	岡部真理子
4	8月29日(土) 10:15-12:15	2 時間	あいち 国際 プラザ	16人		第1回目で衣料品店にて購入したものを持ち寄り、ふりかえりを行う	白石真理	岡部真理子
5	12月11日 (金) 14:30-15:30	1 時間	あいち 国際 プラザ	15人	おにぎりを つくって みよう	おにぎりの作り方を日本語で学び、実際に作って食べてみる。新たに学んだ日本語や、おにぎりを食べた感想を日本語で発表する。	春日井隆司	甲村博美
6	12月11日 (金) 19:00-20:00	1 時間	あいち 国際 プラザ	7人			春日井隆司	甲村博美
7	12月12日 (土) 11:30-12:30	1 時間	あいち 国際 プラザ	20人			春日井隆司	甲村博美
8	12月12日 (土) 15:00-16:00	1 時間	あいち 国際 プラザ	8人			春日井隆司	甲村博美
9	12月15日 (火) 14:00-15:00	1 時間	あいち 国際 プラザ	4人			春日井隆司	甲村博美

④マニュアルの作成

○ 規格: A4 両面カラー 86 ページ

- 印刷部数： 1,500 部
- 編集委員： 3 名
 - 酒井美賀 東海日本語ネットワーク／ことばの会・NIC 日本語の会
 - 鈴木勝代 東海日本語ネットワーク／ことばの会
 - 米勢治子 東海日本語ネットワーク
- 作業補助者：3 名
 - 安藤よし子 東海日本語ネットワーク
 - 岡部真理子 東海日本語ネットワーク／ほしがおか日本語教室
 - 白石真理 東海日本語ネットワーク／ほしがおか日本語教室
- 配布先：地域の日本語教室、市町村、市町村国際交流協会 等

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例①

【研修第8回 平成 27 年 11 月 7 日(土)】 テーマ:実践活動ふりかえり②

内 容:受講者が所属する各教室にて研修で作成した活動案をもとに実践的に教室を行った。その結果をポスターにまとめ、発表した。受講者同士で感想や意見を話し合い、今後の教室に向けての決意を話し合った。

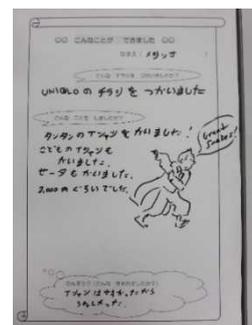


取組事例②

【モデル教室 平成 27 年 8 月 29 日(土)】

テーマ:ちらしを使って買い物しよう (2 回目)

内 容: 1 回目で実際に店舗に行き、購入したものを持ち寄ってふりかえりを行った。学んだ日本語を活かして、店員にどのように聞いたか、また新たに分かったことを話し合った。前回購入したものを着てきたり、秋物を買ったので秋に早く着たいと話す学習者がいた。



(8) 目標の達成状況・成果

プログラム研修:受講者のアンケート結果より、最初は理解するのに苦労したが、だんだんと明白になったとの意見や、学習者との対話をもっと意識するようになったとの意見が見られた。ただし、理解するのが難しかったという意見も多く、講座の構成の見直しが必要。

受講者の中には、ボランティアになって間もない人もいたが、初心者の視点を活かし、「行動・体験型」をうまく取り入れている教室があった。ボランティア自身の意識も向上したように思われる。プログラム研修の成果も報告した「成果発信会」においてはプログラム研修の受講者が多く出席し、成果に耳を傾けていた。

モデル教室:学習者の感想の発表より、満足度・理解度が高かったことが伺える。「行動・体験型」の教室は「すごく楽しかった」「いつもよりもたくさん話すことができた」等の感想が多く伺えたため、成果につながったと考えられる。

(9) 今後の改善点について

アンケートの結果より、理解するのに時間がかかった、内容が難しく理解ができない部分があったとの意見があった。意義を理解してもらうために講座の最初に講義を行っているが、百聞は一見に如かず、モデル教室を早めに開催することにより、意義や方法について知ってもらうことも大事である。

また、参加教室を増やすことも課題の一つである。「行動・体験型」の意義をより広く知ってもらうためには、さらに新規教室からの参加を促したい。

今回は研修を実施し、研修に対するアンケートのみを行ったが、研修の受講後、どのように教室が変わったかの検証が必要。

(10) その他（事前説明会）

昨年の事業の反省を踏まえ、より多くの日本語教室、ボランティアに参加してもらうこと、参加が難しい場合も「行動・体験型プログラム」について広く知ってもらうことを目的に、研修についてチラシの配布だけでなく、職員やコーディネーター等が地域の日本語教室を訪問し、研修の趣旨や内容、「行動・体験型プログラム」等について説明した。

日時	訪問先日本語教室	場所	訪問者
平成 27 年 5 月 13 日(水) 12:30~13:00	ことばの会	名古屋市女性会館	米勢治子 甲村博美
5 月 14 日(木) 12:30~13:00	日本語教室あかさたな	あいち国際プラザ	酒井美賀 伊藤詩織 甲村博美
5 月 14 日(木) 18:00~19:00	黒川日本語教室	名古屋市総合福祉会館	鈴木勝代 春日井隆司 甲村博美
5 月 20 日(水) 9:30~10:00	知多市日本語教室	知多市ふれあいプラザ	春日井隆司 甲村博美
5 月 24 日(日) 10:00~11:30	おしゃべりひろば	愛西市文化会館	鈴木勝代 甲村博美
5 月 26 日(火) 10:00~12:00	塩津教室	塩津教室(蒲郡市)	酒井美賀 春日井隆司 甲村博美

5月29日(金) 16:00~16:30	東別院日本語教室	東別院会館	酒井美賀 伊藤詩織
5月30日(土) 18:00~18:30	KIFAV 日本語教室	刈谷市国際プラザ	鈴木勝代 岡部真理子 伊藤詩織
6月1日(月) 10:00~11:30	あいち日本語の会	名古屋韓国人会館	酒井美賀 甲村博美
6月4日(木) 17:00~17:30	おかえりなさい日本語教室	寺子屋シェイクハンズ	鈴木勝代 春日井隆司

取組4-3:地域日本語教育コーディネーター研修の開催

(1) 体制整備に向けた取組の目標

県内市町村・市町村協会の担当者が日本語教育の意義について学び、コーディネーターとしてのスキル及び、行動・体験型の教室活動のつくり方を身に付けられるようにする。

(2) 取組内容

市町村・市町村国際交流協会の日本語教育担当者を対象に、日本語教育コーディネーターに必要なスキル及び行動・体験型教室活動について学ぶことができる講座を実施する。

受講者が参加しやすいように、愛知県内の尾張地区と三河地区の2地域にて同内容を1回ずつ行う。
尾張地区:あいち国際プラザ 三河地区:岡崎市図書館交流プラザリぶら

<内容>

- ・多文化共生に向けた地域における日本語教育推進のあり方
- ・地域日本語コーディネーターの役割
- ・地域内の連携体制構築に向けてー豊田市の事例ー
- ・地域のニーズにどう応えるか
- ・ふりかえりと今後に向けて

(3) 対象者

市町村・市町村国際交流協会担当者・日本語教室コーディネーター

(4) 参加者の総数 28人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 0人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
									28

※その他の国籍と人数:該当なし

(5) 開催時間数(回数)

10時間(5時間×全2回)

(6) 活動の内容

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	実施概要	講師	補助者
1	平成 27 年 5 月 27 日(水) 10:30-16:30	5 時間	あいち 国際 プラザ	12 人	地域 日本語教育 コーディネーター 研修	<ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生に向けた地域における日本語教育推進のあり方 ・地域日本語コーディネーターの役割 ・地域内の連携体制構築に向けてー豊田市の事例ー ・地域のニーズにどう応えるか ・ふりかえりと今後に向けて 	米勢治子 北村祐人 神谷輝	北村祐人
2	6 月 5 日(金) 10:30-16:30	5 時間	図書館交 流プラザリ ぶら	16 人				

(7) 特徴的な活動風景(2~3回分)

取組事例①

【平成 27 年 5 月 27 日(火)・6 月 5 日(金)】

テーマ: ふりかえりと今後に向けて

内 容: ・愛知県が取り組んでいることは市町村レベルでも取り組むことができるので目的を見据えて活動をしていただきたい。コーディネーターの役割が大事

◇納得できたこと(スッキリ)

- ・小さいことから一つ一つ変えること
- ・人材の育成が大切

◇疑問に思ったこと(モヤモヤ)

- ・行政と日本語教室のギャップ
- ・コーディネーターの役割



取組事例②

【平成 27 年 5 月 27 日(火)・6 月 5 日(金)】

テーマ: 地域内の連携体制構築に向けてー豊田市の事例ー

内 容:

- ・豊田市では名古屋大学と協働して「とよた日本語学習支援システム」を運営。
- ・日本語教室、日本語能力判定、人材育成、e ラーニングを主に実施。
- ・育成していくことが、体制整備につながる
- ・協働していくことが、体制の整備につながる
- ・様々な立場の連携が、体制整備につながる



(8) 目標の達成状況・成果

日本語教育コーディネーターに必要なスキルや行動・体験型教室活動について学ぶことができ、また、愛知県の日本語教育の実態をよく知ってもらえたことがアンケートの結果からもわかる。先進事例からコーディネーターの役割や重要性について認識できたことや、受講者同士での情報交換もできたことは、今後活かされる研修となった。

【アンケート結果抜粋】 回答数: 23 名

今回の研修で、「システムコーディネーター」の役割について、理解は深まりましたか？

ア.はい: 23 名 イ.いえ: 0 名 ウ.どちらともいえない: 0 名

(9) 今後の改善点について

より多くの担当者に参加してもらうために、開催時期や周知の方法について工夫が必要であると思う。具体的には、市町村や市町村国際交流協会の会議等においてコーディネーター研修の意義について説明をし、参加を促したい。

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

- ①地域の様々な主体が連携・協働して多文化共生社会に向けた「地域における日本語教育」を推進していく基盤をつくること
- ②日本語教育指導に携わるボランティア等がより効果的な教室活動を実施できるようになること
- ③県内市町村と連携をとり、地域に必要な日本語教育のコーディネーターとしての役割を担う人材を育成すること

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

市町村・市町村国際交流協会の担当者や日本語教育ボランティアなど多くの関係者に「行動・体験型」教室活動を2カ年に亘り伝えることができたことは、地域の日本語教室の意識改革につながっている。

プログラム研修終了後に独自で行動体験型を実施している日本語教室もあつたり、教室活動の改善についての議論も増えたという教室もあつたり、少しずつだが本事業の成果が現れてきている。

また、全ての事業を通じて行っている参加者間の経験交流や情報交換は参加者の意欲を刺激し、それぞれの教室活動の活力に結びついていることがアンケート結果からもみることができる。

全ての取組みについて運営委員会で評価を受けたが、「本事業への参加は教室活動を考える機会にもなっている。」「複数年参加した教室は確実に成果が出てきている。参加者や教室の経年変化をみることも重要である。」など事業の継続への期待感が高かった。

本事業の実施にあたって、市町村・市町村国際交流協会との会議において、地域のボランティアや日本語教室への周知、参加を要請するなど地域をあげた日本語教育のきっかけづくりを進めることができた。

(3) 地域における事業の効果、成果

地域の日本語教室では「多文化共生の地域づくり」という認識がないまま、従来型の活動を続けているところも多かったが、取組4-3では、日本語教育の意義やコーディネーターとしてのスキルや役割の重要性、日本語教室の活動の意義、市町村と日本語教室の連携についての認識を深め、取組4-2では行動体験型の活動を実践することで理解を深め、参加した教室の活動の改善につなげるきっかけとなっている。取組2では市町村と連携し、地域日本語教室活動のステップアップを図ることができた。それらの成果は、取組3の成果発信会への参加教室の多さや行動・体験型への関心の高さ、活発な意見交換に顕著に現れている。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果

市町村や市町村国際交流協会と地域の日本語教室の現状や課題に関しての情報交換や本事業への参加協力を図り事業を実施した結果、多くの市町村や国際交流協会職員の参加、地域の日本語教室からの参加があつた。

また、東海日本語ネットワークや日本語教育関係者と連携し、専門的知識を本事業で活かすことで、効果的な取組を実施することができた。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

事業の周知・広報については、当協会の機関誌や市町村広報誌への掲載、日本語教室や関係団体へのチラシの配布、会議等での説明や参加要請、報道機関への記事掲載など取組の目的に応じて適時広報を進めた。

事業の成果発信については、成果発信会を2月に実施したことを始め、3月には活動事例集の作成と配布、4月の市町村・市町村国際交流協会との会議での成果報告、当協会の機関誌やHPでの成果普及を進める予定である。

(6) 改善点、今後の課題について

従来型でマンネリ化した教室もあるため、行動体験型の普及や新たな日本語教育活動の担い手を育成する必要があるので、行動体験型の普及に加え、日本語教育ボランティアの入門講座を実施して行きたい。

行動体験型は教室活動を見直すインパクトがあるので、活動事例集を作成し関心を持って取組に参加していただけるようにしたり、教室間の事例交流やノウハウの共有を進めたりできるように、開催時期や実施方法の工夫をして参加教室を増やしたい。

また、日本語教育事業の安定的な実施に向け、地域の日本語教室や市町村・市町村国際交流協会の皆さんの主体的な参加ができるよう十分にコミュニケーションをとって行きたい。